

台灣出兵ニ付手續書

去一千八百七十一年第十二月臺灣生蕃地ニ
 才イテ日本臣民五十四名殺害ヲ蒙リタルニ
 付其事情詰問ノタメ并ニ後來再ヒ斯ル兇惡
 ノ屢置アルヲ防クニ須要タル基礎ヲ起サン
 爲ソ爰ニ其防禦ニ足ルノ兵備ヲ附シ臺灣生
 蕃事務都督派出スルノ記事左ノ如シ
 臺灣生蕃ノ為メ漂流人ノ殘虐ヲ被ムルハ航
 海者并ニ其窮厄ノ際ニ當リ之カ保護ヲ與フ
 ル責任アル政府ニ於テ大ニ思慮ヲ苦ムル

爰ニ多年ナリ然リ而シテ斯ル土蕃ニ對シ西
 洋諸邦^ニ問罪ノ師ヲ舉シハ其例間々之アル
 所ナリ其結局ニ至リ南方土蕃ノ十八種首長
 ト^ニキトク^クヲ戴ク者終ニ英米ノ爰ニ加ル所
 ノ兵力果シテ抗スベカラザルヲ實驗了得シ
 一千八百六十七年廈門兼臺灣擔任米國領事
 ト漂流人防禦ノ盟約ヲ致スニ至リ尔來其蕃
 能ク此盟約ヲ遵守シテ曾テ犯セシ^トナシ^ニ
 臺灣東漢ノ部ハ其地方未タ詳明ナラザルガ
 故ニ^トキトク^ク所領ノ北方ニ在ル土蕃平撫

ノ事業ヲ起スニハ先ツ其地理ヲ搜索通明ス
 ル^ト急務タリ然ルニ此舉ヲ起スヤ莫大ノ經
 費ト勉カトニ非レハ能ハザルノ故ニ未タ曾
 テ何者ノ此事ヲ謀ル^トアラス今ヤ時勢ノ來
 リテ日本ヲシテ此仁慈ノ實業ニ慎起セシム
 ルニ至ル
 千八百七十一年第十二月十一日六十六名ノ
 日本人臺灣東方ノ海岸北緯大約二十二度十
 八分ノ地ニ於テ破船ノ難ニ逢ヒタル時委シ
 ク彼地土人ノ一種屬タル^トホ^トン^ト人ノ為メ

或秋也ラレ幸ニ虎口ヲ脱シタル者僅カニ
 十二名十リ千八百七十三年三月八日我國民
 四名臺灣ノ海岸マバキニ於テ破船ノ難ニ逢
 ニ其積荷及ニ所持ノ品ニ至ルマテ悉皆奪掠
 セラレタリ因テ客歲我國ノ使節北京ニ行テ
 此際彼ノ兇徒等ヲシテ至當ノ罰ニ處セラレ
 シリヲ談判シタリト雖モ總理衙門之レニ答
 ルニ彼ノ地ハ清國藩屬タルニ非ル旨ヲ以テ
 セリ清國地圖ヲ檢閱スルニ千六百三十五年
 和蘭人ノ臺灣島ヲ探索シ得タル彼島内清國

藩屬ノ地ハ諸地圖ヲ見ルベシ即チ北方海岸
 並ニ西方ノ海岸ノ一部ニ記載ス致ニ茲
 カ使節ハ清國政府ノ圖ヲ此論ヲ主張シ且
 シリヨリ切カス港田也諸ノ圖ヲ見ルベ
 シハ延互セル此列アリテ清國ト生蕃臺灣地
 ト分界スルハ清國政府ニ於テハ其界外ヲ
 管轄スルノ意ナキヲ洞察セリ是ヲ以テ使節
 歸朝スルニ方テ事務都督ヲ生蕃臺灣へ派出
 スルノ準備ヲ為スヘキノ命發セリ是レ我カ
 國以テ殘數ニナル其類末ヲ搜索シ自今斯

慘酷ノ舉勿ラシムルノ處置ヲ為サシメシカ
為メナリ今マ準備整々ニ及ビタレハ應ニ日
本ヲ發セントス此行軍兵ヲ率ヒホータン
ハ對シ威カヲ示シ以テ上命ノ趣ヲ談判セシ
メ一滴ノ人血ヲ流サズ前罪ヲ謝シ自今斯ク
暴舉ナク違背スルコト有ラハ日本ニ於テ賠償
ヲ請求スルノ條理アルヘキ旨ヲ保證セシメ
ント欲ス

○一千六百五十四年荷蘭人ホータン
進討ノ舉アリ支那人著述臺灣征伐記一千六

百六十一年七月五日^同府ニ於テアヲラン

トツシ氏佛文ニ譯スル者第十六百六十三號
三十六葉ヨリ三十七葉ニ至ルヲ見ルベシ

○一千八百六十七年第三月廿六日英國軍艦
コルモラン^同艦長^同ゴード^同トルツヲ砲撃
セリ

○一千八百六十七年第六月海軍提督^同ル
アリラン^同灣ニ於テ海兵ヲ上陸セリ^同一千八百
六十七年米國海軍卿ノ報告書第五十四葉ヨ
リ第五十七葉ヲ見ルベシ

此時ニ當リ領事清國人ニ説テ柯ンレ
ノ南ニアル臺灣生蕃ノ地ヲ合スルヲ謀レ
リ米國交際往後一千八百六十八年全六十九
年ノ部第五百〇五葉ヨリ五百十葉ヲ見ルベ
シ然レモ大政府此舉ヲ許シタリ米國通商消
息一千八百六十九年ノ部第六十九葉ヲ見ル

ベシ

ル 一千八百六十九年第九月ハシ
ン
ブ
ラ
ン

ドル船難破 在上海税関監督ノ命ニヨリ一千
八百六十九年第十二月九日開板税関雜報ヲ

見ルベシ 一千八百六十九年第十一月
ホ
ル

シ 難破 一千八百七十年第二月十四日開板税

関雜報ヲ見ルベシ 一千八百七十一年第七月

四
リ
ド
ン
ケ
フ
ス
船
難
破
在
列
カ
ラ
英
國
領
事

館
ノ
ハ
ム
ハ
レ
シ
氏
手
記
ノ
紀
事
ヲ
見
ル
ベ

シ

困号

四月十七日「テルド」抄譯

日本ホルモサニ兵ヲ遣ル事

余輩曩ニホルモサ征伐ノ一條ヲ刊行シタル
 以來別ニ詳報ヲ得ス其處置ノ曖昧異常ナル
 ヲ以テ考フレハ日本政府ハホルモサニ兵ヲ
 遣ル目的ヲ明カニ世人ニ報知セサル可カラ
 サル丁必セリト雖モホルモサニ赴クヘキ船
 隊ヲ備ヘタル事ノ外政府ヨリ一ノ信スヘキ
 陳述ヲ得ス

臺灣即チホルモサハ支那帝國ノ境界内ニ在

十八

神地事務局